

地下室での
調教を終えたカレナには、
帝国軍兵舎の中庭で、
新たな調教が
待っていた。

「帝国兵なぞ
両の手を使わずとも勝てる」
と豪語していたカレナの話
を耳にした彼らは、
カレナが捕虜となった今、
それを示して貰おうと
彼女を拘束し裸で外に出させた。

たっぷりと媚薬で調教され、
風が当たるだけでも身悶えるほど
敏感になった3つの突起には
紐を括りつけられ、
その先に模擬刀をぶら下げられた。

今すぐにも逃げ出したい
カレナだったが、
その場には生き残った
王国騎士団の団員が居た。
敵国の兵士に囲まれた環境で、
カレナは騎士団の長として
この恥辱を受け入れるしかなかった。

括りつけられた模擬刀で試合を行い、
相手の身体はどこかに
触れられれば勝ちとなるが
この体勢と条件……
この後カレナに待ち受けるのは、
試合という名の
凌辱ショーであるということ
誰の目にも明らかだった。

次の瞬間、身じろぐカレナの模擬刀目指して激しい衝撃が走る。男の腕で振り下ろされた剣撃は、一撃でカレナを絶頂させるのには十分だった。あまりの刺激に、腰を折り曲げ少しでも部下たちに情けない所を見せまいと絶頂を抑え込もうとするカレナだったが、帝国兵はそれを許さなかった。

腰を逃がさないように後ろから抑えられ、敏感に育て上げられたクリトリスと乳首が模擬刀ごしに激しく揺さぶられる。

身を震わせ泣き叫び敗北を認めても、兵士は手を緩めなかった。子供をあやすように声を掛け、あざ笑いながら剣撃を加え続ける帝国兵。そのたびにカレナの身体は激しく痙攣し、本人の意思に反し性的快楽を生み出してしまふ。





情けなく野太い声を上げ、カレナは潮を吹いて絶頂した。ひと際深く長い絶頂！騎士として、女として、敗北し醜態を晒す。今まで人目に付かない所で行われていた調教と違い、屋外での恥辱と絶頂は、カレナの心に『敗北』という2文字を強く刻み付けた。

オオオオ



その後
試合に負けたカレナは、兵舎から連れ出され新たな凌辱を受けることとなる。

ヨア...

ヨア...

ぎぎ

ぎぎ

ぎぎ



鍛え直しという名目で、
逆立ちの状態で拘束され、
街中を引き回されるカレナ。
敵国の街中の人々に向かって
乳房や陰部を全開に曝け出され、
頭が焼き切れるほどの
羞恥に耐えながらも、
カレナは黙々と誘導されるままに
前へ進むしかなかった。

騎士としても敗れ
女としての尊厳も
踏みにじられながらも
自身の性器は愛液を
分泌し続ける。
カレナは何より
そんな自分が
情けなかった。

ググー

クグー

クグー

王国騎士の醜態を一目見ようと、野次馬が集まり切ったところで、敵兵はカレナをその場に留め、陰部へと鞭を打ち始めた。王国騎士団長カレナへの公開調教ショーの始まりだ。ただでさえ試合後で、敏感になったクリトリスに、容赦のない鞭打ち。街中に、バチバチと愛液を蓄えた性器への打撃音と、カレナの情けない喘ぎ声が響く。

カレナは目を閉じ、汗が全身を伝っている。鞭の音は「バチバチ」と響き、彼女の体は震えている。周囲からは「カレナ」という声も聞こえる。

あ、カレナさん、ありがとうございます。カレナは顔を赤らめ、涙が頬を伝っている。鞭の音は「バチバチ」と響き、彼女の体は震えている。

カレナへ行われるこの調教は、あくまで敵国兵士から与えられたより強い剣士になるための訓練。性器へ指導を受けたカレナは、女として最悪な仕打ちを受けている。その慈悲の心に、謝辞を述べなければならなかった。



産まれて一度も男性を受け入れたことのないまま、自由を奪われ、鞭られ、弄ばれ続けたカレナの女性器は、もはやこんな仕打ちを受けていても勝手に悦んでしまう卑しいマゾ穴になり果てていた。



女性器を男たちの目の前に
高く晒し上げられたまま、
潮を吹いて絶頂—
体を震わせて、
狂ったように股間から
愛液をそこら中にまき散らす
カレナのその姿は、
帝国から受けた調教の
徹底さを物語っていた。



3度の戦を制し、王国に
繁栄と栄光をもたらした
誇り高き軍神は、
こうして帝国によって
剣士としても、女としても
蹂躪され、
一匹の下劣なマゾ雌に
作り替えられてしまった。

カレナはそのまま
暫くの間
街の中心部で
股間に鞭を受けながら
まるで噴水のように
無様に潮を吹き続けた。

公開調教が終わると、カレナは恥部を晒した体勢でその場に放置された。少しでも動けばクリトリスと乳首が互いに引っ張り合うように細工をされ、絶頂すれば性器と共に肛門が痙攣し自動的に白旗を振る仕組みだ。無理な体制が続き体の力を緩めると、火照った乳首が締め上げられ絶頂。体勢を立て直すために腰を持ち上げようとするれば今度はクリトリスが引っ張り張られ絶頂。



人々が往来する大通りの道端で、無様な姿勢のまま、ただただ終わることのない甘イキを続け白旗を肛門で振り続けるカレナ。かつて騎士団を率い、最後まで戦い抜いた女騎士は、帝国の勝利を象徴するオブジェとして暫くの間道行く人々を愉しませたと云う。





ヒク

ゴク

ヒク

ゴク



ゴク

ヒク

ヒク

ゴク

ゴク

ゴク

ゴク

ゴク

ゴク



ゴク

ゴク

ヒク

ゴク

ゴク







地下室での
調教を終えたカレナには、
帝国軍兵舎の中庭で、
新たな調教が
待っていた。

『帝国兵なぞ
両の手を使わずとも勝てる』
と豪語していたカレナの話
を耳にした彼らは、
カレナが捕虜となった今、
それを示して貰おうと
彼女を拘束し裸で外に出させた。

たっぷりと媚薬で調教され、
風が当たるだけでも身悶えるほど
敏感になった3つの突起には
紐を括りつけられ、
その先に模擬刀をぶら下げられた。

今すぐにも逃げ出したい
カレナだったが、
その場には生き残った
王国騎士団の団員が居た。
敵国の兵士に囲まれた環境で、
カレナは騎士団の長として
この恥辱を受け入れるしかなかった。

括りつけられた模擬刀で試合を行い、
相手の身体はどこかに
触れられれば勝ちとなるが
この体勢と条件……
この後カレナに待ち受けるのは、
試合という名の
凌辱ショーであるということ
誰の目にも明らかだった。

ハク

ふん

ハク

うん

かつて軍神として、戦場で無類の剣捌きを見せていたカレナだったが、今ここにいるのは、全裸で情けなく腰をヒクつかせ、だらしなく育った胸を揺らしながら必死に模擬刀を振るう、売女も顔負けの浅ましい女の姿だった。



部下達を人質に取られ、試合を投げ出すことも出来ないカレナは、必死になって剣を振った。女として隠すべき場所をすべて曝け出し、ガニ股で乳を揺らしながら突進してくるカレナを、敵役の兵士は嘲笑し、軽くないし続ける。



剣が交わる度、取り付けられた紐を辿ってカレナは乳首とクリトリスに刺激を受け、甘い声を漏らしてしまう。

地下室で受けた調教によって、ただでさえ模擬刀を3点で支えているだけでも、絶頂してしまいうようなのに、捕らえられた部下たちの為に、必死で体をくねらせて剣をふるい続けるしかないカレナの頭は、恥辱と強制的に与えられる快樂で爆発寸前だった。



次の瞬間、身じろぐカレナの模擬刀目指して激しい衝撃が走る。男の腕で振り下ろされた剣撃は、一撃でカレナを絶頂させるのには十分だった。あまりの刺激に、腰を折り曲げ少しでも部下たちに情けない所を見せまいと絶頂を抑え込もうとするカレナだったが、帝国兵はそれを許さなかった。

腰を逃がさないように後ろから抑えられ、敏感に育て上げられたクリトリスと乳首が模擬刀ごしに激しく揺さぶられる。

身を震わせ泣き叫び敗北を認めても、兵士は手を緩めなかった。子供をあやすように声を掛け、あざ笑いながら剣撃を加え続ける帝国兵。そのたびにカレナの身体は激しく痙攣し、本人の意思に反し性的快楽を生み出してしまふ。





情けなく野太い声を上げ、カレナは潮を吹いて絶頂した。ひと際深く長い絶頂！騎士として、女として、敗北し醜態を晒す。今まで人目に付かない所で行われていた調教と違い、屋外での恥辱と絶頂は、カレナの心に「敗北」という2文字を強く刻み付けた。

オオオオ



その後
試合に負けたカレナは、兵舎から連れ出され新たな凌辱を受けることとなる。

ヨア...

ヨア...

びびび

びびび

びびび



鍛え直しという名目で、
逆立ちの状態で拘束され、
街中を引き回されるカレナ。
敵国の街中の人々に向かって
乳房や陰部を全開に曝け出され、
頭が焼き切れるほどの
羞恥に耐えながらも、
カレナは黙々と誘導されるままに
前へ進むしかなかった。

騎士としても敗れ
女としての尊厳も
踏みにじられながらも
自身の性器は愛液を
分泌し続ける。
カレナは何より
そんな自分が
情けなかった。

ギョッ

フィル

フィル

フィル

フィル

グググ

フィル

フィル

みづが

グググ

ぶっ

グググ

クワ

クワ

王国騎士の醜態を一目見ようと野次馬が集まり切ったところで、敵兵はカレナをその場に留め、陰部へと鞭を打ち始めた。王国騎士団長カレナへの公開調教ショーの始まりだ。ただでさえ試合後で、敏感になったクリトリスに、容赦のない鞭打ち。街中に、ハチハチと愛液を蓄えた性器への打撃音と、カレナの情けない喘ぎ声が響く。

カレナへ行われるこの調教は、あくまで敵国兵士から与えられたより強い剣士になるための訓練。性器へ指導を受けたカレナは、女として最悪な仕打ちを受けていながら、その慈悲の心に謝辞を述べなければならなかった。

産まれて一度も男性を受け入れたことのないまま、自由を奪われ、鞭られ、弄ばれ続けたカレナの女性器は、もはやこんな仕打ちを受けていても勝手に悦んでしまう卑しいマゾ穴になり果てていた。

女性器を男たちの目の前に
高く晒し上げられたまま、
潮を吹いて絶頂—
体を震わせて、
狂ったように股間から
愛液をそこら中にまき散らす
カレナのその姿は、
帝国から受けた調教の
徹底さを物語っていた。



3度の戦を制し、王国に
繁栄と栄光をもたらした
誇り高き軍神は、
こうして帝国によって
剣士としても、女としても
蹂躪され、
一匹の下劣なマゾ雌に
作り替えられてしまった。

カレナはそのまま
暫くの間
街の中心部で
股間に鞭を受けながら
まるで噴水のように
無様に潮を吹き続けた。

公開調教が終わると、カレナは恥部を晒した体勢でその場に放置された。少しでも動けばクリトリスと乳首が互いに引っ張り合うように細工をされ、絶頂すれば性器と共に肛門が痙攣し自動的に白旗を振る仕組みだ。無理な体制が続き体の力を緩めると、火照った乳首が締め上げられ絶頂。体勢を立て直すために腰を持ち上げようとすれば今度はクリトリスが引っ張られ絶頂。



人々が往来する大通りの道端で、無様な姿勢のまま、ただただ終わることのない甘イキを続け白旗を肛門で振り続けるカレナ。かつて騎士団を率い、最後まで戦い抜いた女騎士は、帝国の勝利を象徴するオブジェとして暫くの間道行く人々を愉しませたと云う。